



教育政策で 自主財源づくりを

田中親彦 議員

魅力ある都市の要は 教育政策である

問 先の中学校での教諭による生徒への体罰行為は非常に残念な思いがある。今、市教育委員会では教員の意識改革をして教育目標である地域に信頼される学校づくりの実践をされている。この事件をマスコミだけの情報でしか持ち合わせない市民も数多く居られ、実情とは違った誇張した報道の

多い中、筑後市のイメージは対外的にも大きくダウンした。

「真に求められている教育者へ」との意識改革を今後どう指導されるか。

教育長 教員としてのプライドの持つて行き場の苦慮もあるうが生徒指導の第一歩はやはり生徒をよく理解するところから始まる。生徒の書いた日誌や作文からの情報で心情を読み取り信頼関係をつくる。教師側からすると学校に対する要望が限度を超えた要求で来ることもあり悩みも多く保護者との連携をどうするかも指導のひとつとなる。

図書館づくりで 教育文化の構築を

問 財政難の今、財政構築の施策として教育都市づくりがある。市民の声、企業からの寄付金など、内外からの支援もいたたく環境づくりで、社会教育振興の教

育文化の要である図書館建設を、具体的に前進させる考えはあるか。

市長 図書館建設は私と市民との約束である。並大抵ではない財政の荒波の中で先送りせざるを得ないのが実情だ。市民の声の高まりが極めて大事で、市民全体の大きな声を力に一日でも早く市の財政を健全化して民間活力方式の採用など、最優先で図書館建設の約束を果たしたい。



中央公民館図書室

高齢者の生きがい 福祉サービスを問う

坂田容子 議員

問 昨年スタートした市民聴講生制度で聴講生は昨年からの引き続きの方だけで今年度は一人もいなかったのはどうしてか。

健康で安心できる 福祉サービスは

教育部長 教育委員会として、あまり数を急がず、まずこの制度をきちんと定着させることに力点を置いていきたい。

健康づくり課長 日常生活圏で、中学校区ごとにあるような整備をしていくことで計画をつくっているが、今のところ古川ふれあい・いきいき館の利用状況を見ながら、次の拠点整備を進

める協議を行っている。

問 高齢者が見て分りやすい福祉サービスのシンプルナチャシはできないか。

女性の登用状況は

健康づくり課長 今後さらに、ニーズに応じて見やすい形に改良する。

問 国の第2次男女共同参画基本計画の重要項目の1つに、平成32年までにあらゆる分野で指導的地位に占める女性の割合が30%になる必要があると思っ

るようになっている。筑後市の審議会、委員会、市職員の管理職の登用状況はどうなっているのか。

市長 これからの社会形態は、もはや女性を家庭の中に押し込めておくということでは国自体が成り立たないというふうに思われる。管理職登用と審議会・委員会の女性登用は一応個別に置きながら考え、審議会・委員会への登用について、今後しっかりと努力をしていかなければと思っ



介護予防拠点施設
(古川ふれあい・いきいき館)